

果実品質と耐病性を重視した イチゴのオリジナル品種育成

1. 研究の目的

県内で栽培されているイチゴはほとんどが冬の日照が多い地域で育成されており、本県での栽培に適していません。

そこで、本県の気象条件に適応し、果実が大きくて糖度が高く、病気にも強いオリジナル品種の育成を目指しています。



3次選抜した有望系統

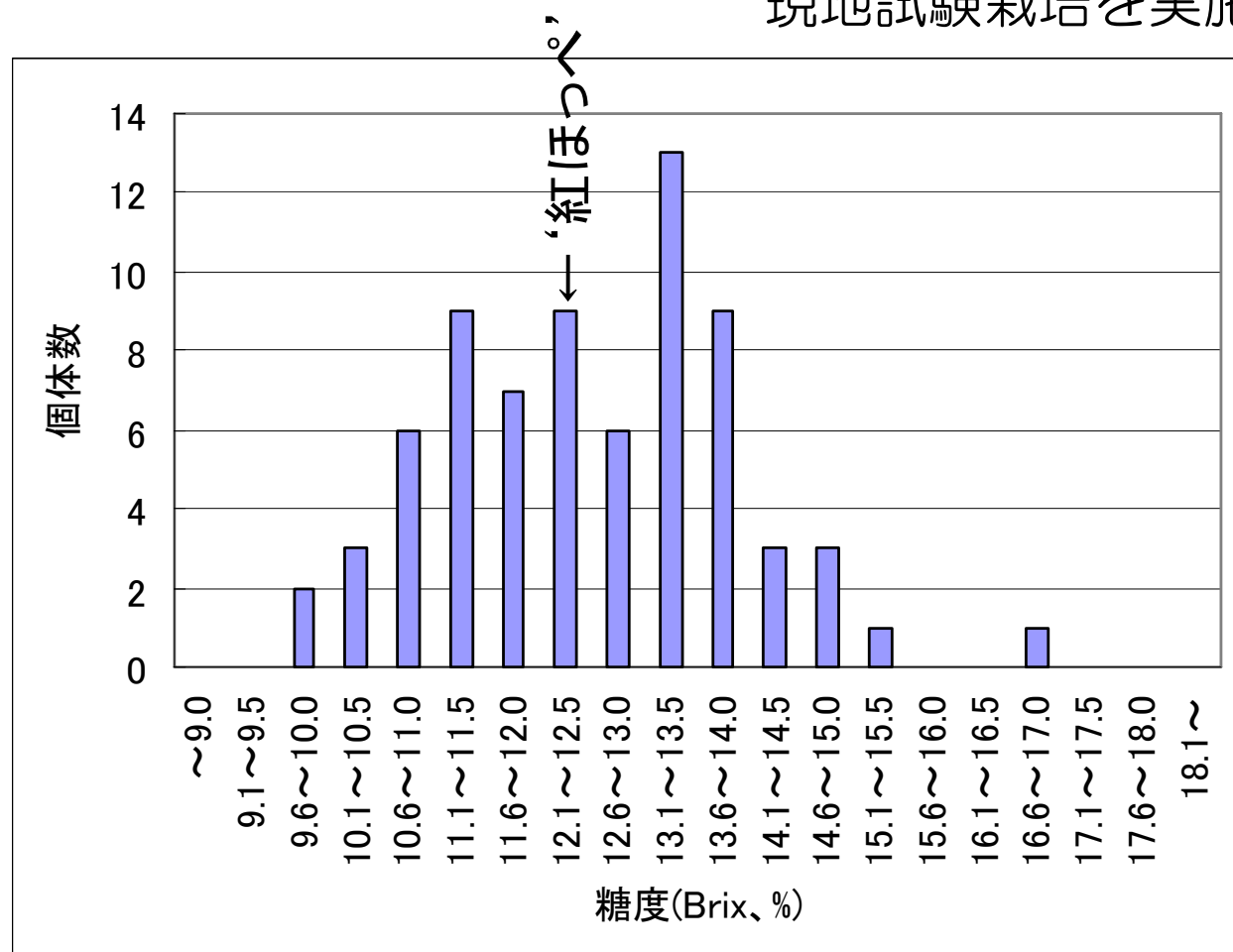
2. これまでの研究成果

‘紅ほっぺ’の自家受粉個体には、親の平均的糖度12.5を上回るものがありました。

この他、選抜した高糖度系統と病気に強い品種の交配も進めています。



現地試験栽培を実施する有望系統



紅ほっぺ自家受粉個体の糖度分布